



煌めけ真壁っ子

学校便り 第 6 号
令和 5 年 6 月 27 日発行
学校長 津嘉山 博好

平和について考えました

6月18日(日)に平和集会を行いました。授業参観でしたので、保護者の皆さんにもご参観いただきました。図書委員会による沖縄戦の発表や、学年・学級で平和について考え、自分たちで頑張っていこうと決めたことを発表しました。また、久保田暁先生を講師に招き、78年前に沖縄で起きた地上戦の様子を、1年生にもわかりやすい言葉で語っていただきました。会場にいたみんなが、沖縄に慰霊の日があることの意義を再確認できたと思います。



保護者参加型の授業について

6月18日(日)の授業参観では、1・2年生は保護者に教室内へ入ってもらい、子供たちの学習をアシストしてもらおう保護者参加型の授業を行いました。子供たちは、保護者の皆さんにアシストしてもらうことで普段にも増して意欲的に学習に取り組んでいました。また保護者の皆さんにとっては、子供たちどうしの関わりの中でわが子がどのように学んでいるかが手に取るようにわかったと思うので、子どもの成長を実感できたのではないのでしょうか。

1・2年生以外の学年では、発表等を通して子供たちの成長の様子を感じられるよう努めていましたが、今後は保護者参加型の授業をお見せできるよう計画していきたいと思っています。



7月の行事予定

- 1日(土) 親子集会(2年)
- 3日(月) クラブ⑦(4~6年)
- 5日(水) 4校時授業(給食あり)
ハッピー3組は5校時まで
市中央図書館見学(2年)
- 7日(金) 三和中校区
SDGs講演会(6年)
- 8日(土) 親子集会(1年)
- 12日(水) 委員会活動
食育(2・6年)
- 13日(木) 給食センター見学(2年)
学期末5校時授業(~19日)
- 17日(月) 海の日
- 19日(水) 喫煙防止教室(6年)
- 20日(木) 終業式
- 24日(月) 個人面談(真壁)
- 25日(火) 個人面談(真壁・南波平)
- 26日(水) 個人面談(真栄平)
- 27日(木) 個人面談
(新垣・新垣団地・宇江城)
- 28日(金) 個人面談
(伊敷・名城・古波蔵・糸洲・校区外)

名城ハーリーが開催されました

6月21日(水)、新型コロナの影響により、3年間開催できなかった名城ハーリーが4年ぶりに開催されました。自分たちの住んでいる地域に関心を持ち、もっとよく知ってもらおうという思いから、今年度は学校を休みにして子供たちが参加しやすいようにしました。ただ、保護者の皆様は休みが取れる方は少ないことが予想されたため、何人の子供たちが参加できるのか気になっていましたが、ハーリー船2艘では足りなくて3艘必要になりました。

その他にも、職員チームやPTAチームも参加して、4年ぶりのハーリーを盛り上げることができましたと思います。



萬華之塔慰霊祭で平和への思いを伝えました

6月22日(木)、真壁区の萬華之塔慰霊祭に参加しました。今年、18日の日曜授業参観の振替休日にあたっていたため、真壁子供会として会に参加し、代表の子供たちがそれぞれの平和への思いを伝えました。平和への思いは「ただ思っているだけでは実現しない」とお坊さんから伝えられ、実現するためにどうすればよいか宿題になりました。



沖縄全戦没者追悼式に参加して

慰霊の日に沖縄全戦没者追悼式に参加する4度目の機会をいただきました。その場のもつ雰囲気、平和への思いを新たにしました。もし、子供たちも参加することができたなら、これまでに学習してきたことの意義をしっかりと自覚することができただろうと思います。可能でしたら、次年度お子さんと参加してみたいかをご紹介します。

第三十三回「児童・生徒の平和メッセージ」詩部門 高校の部 最優秀賞
令和五年度 沖縄全戦没者追悼式「平和の詩」朗読作品
今、平和は問いかける

私立つくば開成国際高等学校三年 平安名 秋

夏六月
溶けかけたアイスを手に取り出す
緑明ゆるこの島の屋下がり

時には泣き
時には笑い
時には「ありがとう」を伝える

礎に刻まれた「兄」に
まるであの日のように
そっと触れるおばあちゃんの涙は
陽炎が登る摩文仁の丘に
ただ果てしなく広がっていく

そんな今と変わらない日常が
平和が
そこにはあった

その涙は体を包み込み
私を「あの日」へといざなう

平和は不確か
脆く崩れやすい
いつものまにか消えていく

限らないこの空は
何を覚えているのだろうか
涙に満ちたおばあちゃんの瞳は
何を語りかけているのだろうか

おばあちゃんの涙は
摩文仁の丘に永遠に灯る平和の火は
今、私達に問いかける

七十八年前の
あの日
あの時

平和とは何かを
私達に出来ることは何かを

かけがえのない
たったひとつの命が
憎しみと悲しみの中で
散っていった

私は過去から学び
そして未来へと語り継いでいきたい
おばあちゃんの涙を
沖縄の想いを

名も無き赤子の
微かな

かけがえのない人達を
決して失いたくはないから

震える母の手によって
冷たく光の無いガマの中で
儚く消えていった

今日も時は過ぎていく
いつもと変わらずに

幾多もの砲弾が
紺碧の海を黒く染める鉄の嵐となって
この島に降り注いだ

先人達が紡いできた平和を
次は私達が紡いでいこう

戦争が起きる前
そこには日常があった

そして世界に届けていきたい
平和を創り
守っていく
この沖縄の「チムグクル」を

私達と同じように
原っぱを駆け回り
友達とおしゃべりする
みんなで暖かいご飯を食べ